



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム（選定年度23年度（タイプB-1））H26

## 【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の5大学および西部2大学の計7大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

**プログラムの目的：**アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあうことで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

**養成する人材像：**『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバル・リーダー。



## 実施した交流プログラム概要／準備状況

### 第4 回合同推進会議の実施

H26年6月に第4回合同推進会議をワシントン大学で開催した。本会議には、既存の米パートナー校6大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、ダートマス大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学）が参加。計17名の米国大学教職員が集まり、①平成26年9月より開始となるIntegrated Study Year（日米共同ゼミ、グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の概要、②米国大学における早大生の受入体制、③米国学生向けインターンシップの概要、④協定校担当者同士による米国学生募集方法の意見交換、⑤プログラム評価他、今後のプログラム運営に関する具体的な情報共有および議論を行った。



### Integrated Study Year の開始

H26年9月より、Integrated Study Year（日米共同ゼミ・学生フォーラム）からなる1年間の日米学生の協働学習カリキュラムが開始した。2つのゼミおよびアジアにおけるグローバルな問題定義と提案を学生自ら企画し実践する学生フォーラムにおいて、日米の学生は共に異文化間の相互理解と相互協力を体験的に学んでいる。カリキュラムを通じて日米の学生達は絆の強いコミュニティを確立しており、そのコミュニティは続く2期生、3期生をも交え一つのGLFPコミュニティとして強い絆で結ばれ始めている。

## 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### 相手大学の単位制度等への留意

専門分野の科目等を確実に履修し、単位の振替を十分にできるようにするため、本学において米国学生が所属する学部との連携および共同体制を構築し、英語による専門科目や日本語科目の優先登録制度を開始した。これにより、H26年9月より本学への留学を開始した米国1期生は、所属学部を越えて、専門科目や日本語科目等希望する科目を履修することが出来ている。

### 協定校訪問による関係職員・学生へのプログラム理解促進

協定校を訪問し、次期生へのリクルーティングへつなげるための支援としてインフォメーションセッションを行った。各校とも興味を持つ学生が参加し、直接話す機会を設定することが出来、本学より留学中の学生の協力も得て、プログラムの認知度向上に注力した。また同訪問において米国2期候補生と実際に会って面談を行い、出願書類だけではわかりうる多くの点と、協定校担当者が該当学生を自信を持って推薦した理由を確信することが出来た。

### カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

## 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### プログラム設置科目の充実化

グローバル人材育成事業がH26年度から設置した全学共通副専攻「グローバル・スタディーズ」と棲み分けを図るため、それぞれの科目の内容と目的別に振り分けた。各副専攻の特色を明確化したために総設置科目数（53科目/前年度96科目）は前年度より減少したが、多種多様な内容および実践的かつ高度な英語を身に着ける科目内容により、留学準備及び留学後のスキルUPを目的とした多くの学生からニーズを得た。総履修者数（2,219名/昨年度2,332名）の割合は増加し、一科目あたりより多くの学生が履修した。

### ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を対外的に紹介するため、ウェブサイトとリンクする形で「Archivesページ」を設置し、学生の留学中の活動や成長の記録、気づきを綴ったレポートを公に発信。協定校担当者への遠隔地における体験の共有、学外者への認知拡大と次期プログラム出願希望学生への参加促進に大いに役立った。



## 学生の派遣・受入を促進するための環境整備

### 早大プログラム生が留学中に取得した単位の振替

留学先の各パートナー校のGLFP担当教職員による科目履修による科目履修における適切なアドバイジングサポートにより、早大1期生は、帰国後の各所属学部における取得単位振替をスムーズに行うことが出来ている。現地教職員による手厚いサポートを受けて、学生達は充実した留学生生活を過ごしている。

### 受入学生へのインターンシップ先の開拓、実施

H26年に最終的に6つの米国学生インターンシップ受入先の開拓および契約締結を行い、H27年2月より1か月間、11名中7名の学生がインターンシップに参加した。インターンシップは大成功に終わり、日本でできないインターンシップの内容に、参加した学生の満足度は大変高かった。

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 日本人学生の派遣

H26年秋学期より2期生となる早大フェローズ11名を派遣。またH27年入学者を中心に3期生を選抜し、新規協定校のダートマス大学への派遣学生を含む15名の学生をH27年秋より派遣予定。

### 米国留学生の受入

米国学生募集に注力した結果、志高い11名の学生より出願があったが、経済的理由等やむを得ない理由により5名が辞退となり、計6名の学生をH27年9月より受入予定。H26年度より新規参加のダートマス大学は、H28年9月より受入れ開始となる。\*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	11	14
受入	—	9*	0	11	14